

ソーシャルワークの理論と方法(専門)

問題 115 バイステック(Biestek, F.)による援助関係の原則に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 非審判的態度の原則とは、問題・課題に対してクライアントが負う責任についてワーカーが承認・非承認を決定することである。
- 2 自己決定の原則とは、クライアントが問題解決の方向などを自分で決める権利とニードをもっていることをワーカーがしっかりと認識し、クライアントの判断を促し、尊重することである。
- 3 統制された情緒的関与の原則とは、クライアント自らの情緒的感情を意識化することである。
- 4 意図的な感情表出の原則とは、クライアントの感情を大切にし、クライアントが特にその否定的感情も自由に表現できるよう、ワーカーが促すことである。
- 5 秘密保持の原則とは、他の個人の権利が侵害される場合においてもクライアントの秘密は保持されることである。

問題 116 事例を読んで、A相談支援事業所のB相談支援専門員(社会福祉士)がCさんや同僚とともに取り組んだ実践として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Bは、担当するCさん(35歳)から相談を受けた。D市に住むCさんは難病で重度訪問介護を利用しており、自宅から外出することは難しい状態である。Cさんはパソコンスキルには自信があるが、在宅の重度の障害者には就労の機会がほとんどないことをBに訴えた。Bは、同僚とともにCさんと同様の重度の障害がある人達の自宅を訪問して話を聞いた。そして、Cさんらとともに重度障害者の就労の機会を増やしていくことについて行政に協力を呼び掛けた。

- 1 パーソナライゼーション
- 2 リファール
- 3 ソーシャルアクション
- 4 スクリーニング
- 5 アウトリーチ

問題 117 ソーシャルワーカーの面接技法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「明確化」によって、クライアントはワーカーから賞賛されたと理解する。
- 2 「閉ざされた質問」によって、クライアントは面接における応答の自由度を逆に高める。
- 3 「共感的応答」によって、クライアントはワーカーの持つ価値認識を理解する。
- 4 「要約」によって、クライアントは今までの面接で自分の語った内容の整理を行う。
- 5 「焦点化」によって、クライアントは面接で触れたくないテーマを回避することが可能となる。

問題 118 事例を読んで、事例分析の視点から見て、クライアントのAさんに関する事例検討会における参加者からの発言のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

地域の居宅介護支援事業所がケアマネジャーを対象とした定例の事例検討会を開催した。事例提供者のB居宅介護支援事業所のCケアマネジャーから、一人暮らしのAさん(85歳)の事例が報告された。CケアマネジャーはAさん宅を訪問した際、近隣住民から「Aさんは約2か月前からゴミ収集のない日にごみ出しをしている」「自分の部屋がわからなくなりマンションの管理人が何度も付き添って帰宅している」という話を聞いていることを参加者に報告し、今後の支援について参加者に意見を求めた。

- 1 「Aさんについて近隣住民が困っていることをヒアリングしてはどうでしょうか」
- 2 「Cケアマネジャーは、Aさんの強みや状態をどのように捉えていますか」
- 3 「まずは、マンションの管理人にAさんの今後についての考えを聞いてみてはいかがですか」
- 4 「一人暮らしの継続は難しいので、グループホームの利用を促してはどうでしょうか」
- 5 「Aさん自身は、今の状況についてどのようにお考えなのでしょうか」

問題 119 事例を読んで、A社会福祉士が事例検討を行う際に配慮すべきこととして、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

B市高齢福祉課のAは、ある日後輩のC相談員(社会福祉士)から「最近複雑な生活課題を持っているクライアントへの対応に苦慮しているので、事例検討の場を設けてほしい」と依頼を受けた。

- 1 クライアントも含めて参加者を組織する。
- 2 参加者は、Cと同じ経験年数の者で構成する。
- 3 時間にとらわれずに、結論が出るまで検討する。
- 4 Cが事例報告をする際には、資料を活用せず口頭で行う。
- 5 Cが他の参加者からのコメントに防衛的にならないようにする。

問題 120 事例を読んで、A町社会福祉協議会のB職員(社会福祉士)の総合的かつ包括的支援に基づく次の記述のうち、最初の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

A町では、大規模な工業団地が開発された結果、海外から来た労働者とその家族が増加傾向にある。街中を歩く外国人家族の姿が日常的となった。そのような中、民生委員から、Bに「慣れない文化に戸惑う外国籍家族の存在が顕著であることや、また一方で、在留外国人との交流を望んでいるものの、どのようにすればよいか困惑している地域住民の声が多く聞かれる」と情報提供があった。

- 1 教育委員会に外国籍の子どもの生活状況の改善策を講じるよう要望する。
- 2 在留外国人も加え、学校、自治会等がこの問題を共有化するための懇談の場を企画する。
- 3 外国の文化や習慣について解説した日本人向けパンフレットを作成し、地域住民に配布する。
- 4 企業の人事担当者に状況を説明し、問題解決を依頼する。
- 5 外国籍住民と地域住民の交流の場を設け、広く参加を求める。

問題 121 事例を読んで、A市福祉なんでも相談窓口担当のB職員(社会福祉士)がこの時点で行う対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Cさん(39歳)は3年前夫と離婚し、当時2歳の長男を連れて、それまで一人暮らしをしていた母親(73歳)と同居を始めた。同居開始時、生活全般を母親が支えてくれていたため、Cさんは仕事に専念でき、長男と過ごす時間も確保できていた。しかし数か月前から、母親の物忘れが目立つようになり、会話も成り立たなくなってきたため、家事等も全てCさんが担うようになった。Cさんは心身ともに疲弊し、A市福祉なんでも相談窓口を訪ねた。Cさんは窓口担当のBとの面接において、これまでの経緯を話した後、このまま3人で暮らしていきたいと言った。

- 1 Cさんの母親に、サービス付き高齢者向け住宅の情報を提供する。
- 2 Cさんの不安や焦燥感を軽減するため、ピアサポートの会を紹介する。
- 3 長男への虐待につながる恐れがあるため、近くの児童相談所に通告する。
- 4 Cさん家族の対応を検討するため、子育て支援課や地域包括支援センターと連携する。
- 5 長男の発達を優先し、育児に専念するよう勧める。

問題 122 事例を読んで、A市社会福祉協議会のB職員(社会福祉士)の会議における発言として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Bは自治会役員Cさんから「新型コロナウイルスのためここ数年中止していた地域フェスタを再開したい。私としては、子どもをはじめ、高齢者や障害のある人も参加できるようにしたいと考えている。近々、他の自治会役員や関係者も含めて、実行委員会立ち上げのための会議を開催し、その会でご意見をいただきたい」と依頼を受けた。

- 1 「Cさんを今回の企画・運営のリーダーに指名したいと思います」
- 2 「社会福祉協議会主催で企画するので、自治会は協力してください」
- 3 「地域フェスタについて、まずみなさんのお考えをお聞かせください」
- 4 「今後のスケジュールと協力団体への依頼について、一緒に検討させてください」
- 5 「子どもがいる家庭を手分けして全戸訪問してください」

問題 123 事例を読んで、Aがん拠点病院相談支援センターに勤務するB医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)のこの時点での対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

大腸がんの治療後、定期受診中だったCさん(44歳、男性)はBのもとを訪れ「先日の受診で異常が指摘され、詳しい検査をしました。本日、がんの再発と転移が判明し、主治医から積極的な治療をするか、あるいは、緩和ケアに切り替えるかという2つの選択があることを伝えられました。今までなんとか乗り越えてきましたがもう限界です。家族になんて話したら良いか」と語った。

- 1 今後の生活については、家族でよく話し合うことを勧める。
- 2 Bの過去の経験から、この先の見通しについて説明する。
- 3 カウンセリングを含め、心理的支援をすぐにでも受けることが可能であることを説明する。
- 4 病状について再度説明してもらおうよう、主治医への連絡が可能であることを説明する。
- 5 混乱している気持ちを落ち着かせるため、帰宅を促す。